資料２

従来型事業（サービス購入型）に関する論点について（案）

<table>
<tr><td colspan="2"></td><td>VFMに関するもの</td><td>リスク分担に関するもの</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">従来型
（サービス
購入型）</td><td>支払額削減以外の
VFMについて</td><td rowspan="2">リスクを明確に認識する
ためのリスクワーク
ショップ等の手段について</td></tr>
<tr><td>VFMが果たすべき
役割について</td></tr>
<tr><td rowspan="2">新たな事業類型</td><td>収益施設
併設型</td><td>新たな事業類型における
VFM評価のあり方について</td><td>本体事業と付帯事業との
間のリスク遮断について</td></tr>
<tr><td>運営権
活用型</td><td colspan="2">（現時点で既往事例が存在しないため、
空港等の先行事例の動向を見据えつつ対応）</td></tr>
</table>

（１）支払額削減以外のＶＦＭについて

・ＶＦＭ構成要素である「支払」と「サービスの価値」のうち、主に「サービスの価値」に該当する部分の重要性を認識し、以下に関連する考え方等についての検討を想定（資料３－１、資料３－２、資料３－３、資料３－４、資料３－５）

①従来の公共調達方式における「サービスの価値の向上」について（資料３－２）

- 我が国の公共調達においても、総合評価方式のように「サービスの価値の向上」を重視する傾向にあることが参考になるのではないか。また、海外における取り組みも参考になるのではないか。

②ＰＦＩ以外の官民連携手法における「サービスの価値の向上」について（資料３－３）

- 指定管理者制度による事業において取り組まれてきた、一定のサービス水準を担保するための考え方やその方策も参考になるのではないか。また、海外における評価基準や評価プロセスも参考になるのではないか。

③総合評価方式における多様な評価方法について（資料３－４）

- 我が国の公共調達における総合評価方式の導入以降、現在に至るまで試行されてきた多様な評価方法も参考になるのではないか。

④「サービスの価値の向上」の一部を定量化したＶＦＭの応用について（資料３－５）

- 公共事業に関する費用対効果分析マニュアル等は、元来必要性の評価を企図して策定されたものであるが、その考え方については効率性を評価するＶＦＭの算定にあっても一定程度参考になるのではないか。

（２）ＶＦＭが果たすべき役割について

・ＶＦＭが果たすべき役割を明確にしたうえで事業プロセスの各段階におけるＶＦＭの評価目的やそのあり方等を認識し、以下に関連する考え方等についての検討を想定（資料４）

①段階別のＶＦＭ評価の実施目的、あり方等について

- 事業の企画段階、特定事業評価段階及び事業者選定段階におけるＶＦＭの評価目的やそのあり方等をいかに設定するか。

（３）リスクを明確に認識するためのリスクワークショップ等の手段について

・国内外におけるリスクワークショップの実態等を通じて、以下に関連する考え方等についての検討を想定（資料５－１、資料５－２、資料５－３）

①物価変動／需要変動リスク等について（資料５－２）

- 従来の公共調達方式も含め、既往の事業において物価変動リスクや需要変動リスクをいかに認識し、当事者間で分担してきたのかの実態分析が参考になるのではないか。また、海外における取組状況や論調も参考になるのではないか。

②リスクワークショップの構成メンバーについて（資料５－３）

- リスクワークショップを有意義なものとするための構成メンバーをどう設定するか。また、最大限の効果を発揮するためにファシリテーターにはいかなる役割が期待されるか。